

3.3 全体研究管理

(1) 業務の内容

(a) 業務の目的

全体研究管理を実施し、各テーマの連絡、進捗状況のチェック、実験公開、研究成果公表のための業務を行う。あわせて委員会等の運営、関連機関との事務運営等も行う。

(b) 平成 21 年度業務目的

全体研究管理を実施し、各テーマの連絡、進捗状況のチェック、実験公開、研究成果展開に関わる業務を行う。また、プロジェクト全体を俯瞰し、適切な助言を得るとともに、研究コミュニティ間の連携を推進するための運営委員会を 2 回開催する。

(c) 担当者

所属機関	役職	氏名
独立行政法人 防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター	センター長 企画室長	中島正愛 井上 貴仁

(2) 平成 21 年度の成果

(a) 業務の要約

全体研究管理を実施し、各テーマの連絡、進捗状況のチェックなど全体研究管理を実施した。また、研究成果を公表の一環として公開実験を 9 月 25 日に行った。また、HP <http://www.bosai.go.jp/hyogo/syuto-pj/index.html> を通じ、活動や成果に関する情報発信を行った。さらに、本研究の進展及び成果の展開などプロジェクト全体を俯瞰し、適切な助言を与えるとともに、研究コミュニティ間の連携を推進するため、都市施設の耐震性評価・機能確保研究運営委員会を 2 回（10 月 2 日、2 月 1 日）開催した。

(b) 業務の成果

首都直下地震防災・減災特別プロジェクトのサブプロジェクト「都市施設の耐震性評価・機能確保に関する研究」の中核組織として、業務計画書及び成果報告書などのとりまとめを実施した。また、各研究テーマで開催される会議に出席し、テーマの連携、進捗状況のチェック等を行った。

本研究の進展及び成果の展開などプロジェクト全体を睥睨し、適切な助言を与えると共に、研究コミュニティ間の連携を推進するため、平成 19 年 6 月 1 日に設置した「都市施設の耐震性評価・機能確保研究運営委員会」を、平成 21 年 10 月 2 日及び平成 22 年 2 月 1 日に開催し、本研究の研究推進状況を確認するとともに、実験結果評価や実験計画等に対して適切な助言を与えた。

なお、委員会構成は以下の通りである。

委員長 和田章（東工大）

委員 飯場正紀（建築研究所）

壁谷澤寿海（東大地震研）
寺本隆幸（東京理科大）
長澤泰（工学院大）
濱田政則（早大）
藤田聡（東京電機大）
堀宗朗（東大地震研）
中島正愛（防災科研・研究代表者）
佐藤栄児（防災科研・個別研究テーマ責任者）
長江拓也（防災科研・個別研究テーマ責任者）

さらに、研究成果公開に一環として、長周期地震動による被害軽減対策の研究開発に関するE-ディフェンスでの実大実験を平成21年9月25日に公開し、タイムリーな情報発信を行った。

(c) 結論ならびに今後の課題

全体研究管理を実施し、各テーマの連絡、進捗状況のチェックなど全体研究管理を実施した。また、成果展開の一環として公開実験を平成21年9月25日に行った。さらに、本研究の進展及び成果の展開などプロジェクト全体を俯瞰し、適切な助言を与えるとともに、研究コミュニティ間の連携を推進するため設置した「都市施設の耐震性評価・機能確保研究運営委員会」を2回開催した。

(d) 引用文献

なし

(e) 学会等発表実績

なし

(f) 特許出願，ソフトウェア開発，仕様・標準等の策定

1)特許出願

なし

2)ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

(3) 平成22年度業務計画案

・全体研究管理を実施し、各テーマグループ間の連絡、進捗状況の確認、実験公開の準備、研究成果の展開に関わる業務を行う。また、プロジェクト全体を俯瞰し、適切な助言を得るとともに、研究コミュニティ間の連携を推進するための運営委員会を2回開催する。

- ・研究成果の展開として、平成 22 年度までの成果の活用促進とプロジェクトで分かってきた首都直下地震時における被害の様相や対策案を多くの人々に向けて広報するための成果報告会等を開催する。また、成果・情報等をホームページに掲載する。

